

⑨日本国特許庁(JP)

⑪実用新案出願公告

⑫実用新案公報(Y2)

昭54-40884

⑬Int. Cl.<sup>2</sup>

識別記号

⑭日本分類

庁内整理番号

⑮公告

昭和54年(1979)12月1日

B 65 D 1 / 26

132 A 23

7160 - 3 E

(全2頁)

1

2

①板紙を基材とする皿状容器

②実 願 昭50-133235  
 ③出 願 昭50(1975)9月29日  
 公 開 昭52-47005

④昭52(1977)4月2日

⑤考 案 者 高岡優  
 東京都北区西ヶ原2の1の2の1  
 03

⑥出 願 人 十条セントラル株式会社  
 東京都中央区銀座3の9の6

⑦代 理 人 弁理士 丹生藤吉 外3名

⑧引用文献

特 開 昭50-1869

⑨実用新案登録請求の範囲

板紙又は板紙に合成樹脂等をラミネートした基板の四隅を円弧状に成形し、基板の表面において前記円弧状の縁に向つて多数の凹条筋目を放射状に施し、加熱したおす型及びめす型により前記の基板の周辺部を残して凹入し成形した板紙を基材とする皿状容器。

考案の詳細な説明

本考案は板紙又は板紙にアルミ箔を接着したもの、或いは板紙に合成樹脂をラミネートした基材を熱を加えたおす型とめす型により加圧成形して成る皿状容器に関するものである。

本考案の目的は、従来のこの種容器に比べ外観の体裁も良くし、しかも深く絞り成形できる構造の容器を提供することにある。

前記の目的を達成するため本考案は、板紙又は

板紙に合成樹脂をラミネートした基板1の四隅を円弧状に成形し、基板1の表面において前記円弧状の縁2に向つて多数の凹条筋目3を放射状に施し、加熱したおす型及びめす型により前記の基板の周辺部を残して凹入し形成したものである。なお凹入筋目3は基板1の大きさや素材又は、絞る深さによつてその数や長短の長さを適宜選定するものである。

従来この種の容器は基板を単に必要な形状に載断し、おす型とめす型により加熱成形したものである。従つて絞り加工時の四隅に発生する多数のしわが不均一であるため、出来上つた皿状容器の円弧状の周縁が凹凸になつて体裁が悪くなり、商品価値を損ねる欠点があつた。

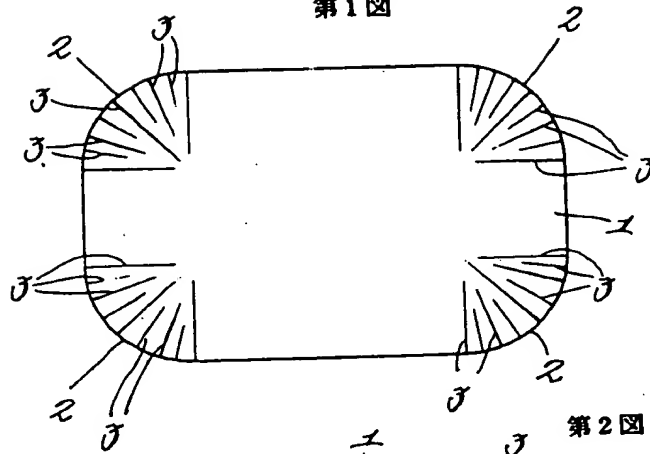
15 本考案は前記のように基板の表面四隅において円弧状縁に向つて多数の凹条筋目を出来上り容器内面に於いて放射状に施してあるため、成形に当りこの筋目の部分でしわを吸収する結果、四隅に発生するしわが均一となるので円弧状の周縁に凹凸がなくなり、仕上りが綺麗で頗る体裁が良い。従つて外観美のある皿状容器を得ることは勿論、従来のものより深く絞ることが可能となり、成型性の極めて良好な容器を供給できる。

図面の簡単な説明

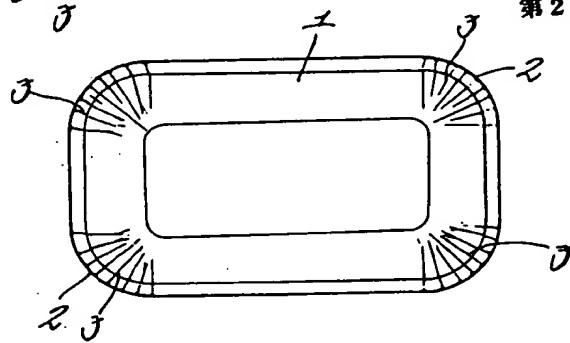
25 図面は本考案に係る板紙を基材とした皿状容器の一実施例を示したもので、第1図は成形前の基板の平面図、第2図は成形した本考案容器の平面図、第3図は一部の横断平面図、第4図は同じく縦断側面図、第5図は一部の斜視図である。

30 1……基板、2……円弧状縁、3……凹条筋目。

第1図



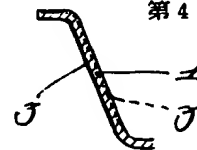
第2図



第3図



第4図



第5図

